



記念樹

発行者
医療法人 大分記念病院

大分市羽屋9組の5
TEL 097 - 543 - 5005



ホームページアドレス <http://oitamh.jp>

2020年5月15日 Vol.130

新型コロナウイルスパンデミック、国家存亡の危機

最近、日本のみならず世界中の人々が毎日新型コロナウイルス感染の恐怖を抱きながら暮らしていると思います。この感染で死亡された方々のご冥福をお祈りいたします。

4月15日現在、世界全体での感染者数は197万3715人、死者数は12万5910人、日本では、感染者数が7702人で死者数は146人となっています。

新型コロナウイルスは2019年12月末、中国の武漢で発症した肺炎患者の一群で発見されましたが、瞬間に中国全土に広がり、韓国、日本、イタリアからアメリカ、欧州その他全世界へと大流行を来し、3月のWHOによるパンデミック宣言となりました。

当初罹患率や重症化率及び致死率などについて、毎年冬季に発生する季節性インフルエンザと同程度と軽く受け止められていましたが、感染例が増えるとともに、このウイルスは2003年に日本でも大流行した重症急性呼吸器症候群(SARS)よりも感染力が強く、潜伏期(4〜14日)内でも感染すること、感染者の81%は軽症、14%が重症、5%が危篤状態で、致死率が23%と報告されました。

また高齢者、糖尿病、高血圧、心臓病、腎臓病、慢性肺疾患、慢性腎臓病及び免疫不全の

ある人が重症化しやすいことが判明しました。なお、致死率については各国で格差がみられ、新型コロナウイルスの亜型も発見されており、ウイルスの変異による強毒化の可能性も示唆されています。

ウイルスの主たる感染経路は鼻咽喉粘液の「飛沫感染」と「接触感染」で、粘液中のウイルスは2〜3メートルは飛散するので、感染予防の基本であるマスクの着用、手洗い、うがいの励行と同時に、いわゆる三密(密閉、密集、密接)を回避することが最も重要です。

現在の時点では、日本での死者数は他国に比べまだ少ないですが、東京を中心に全国各地で感染者が毎日増加しており、病院や介護老人医療施設内感染と医療従事者の感染や、警察、タクシー運転手、消防士など多職種の人々の感染が報じられています。

さらに感染防止と治療用のマスク、手袋、ガウン、消毒用アルコール、フェイスシールド、人工呼吸器などの不足も依然として解消されていません。またコロナウイルス感染症に特化した呼吸器専門病院が不足しているため、発熱のある患者さんは病院をたらい回しにされる事例が報道されており、国民の不安を増大しています。治療薬に関しては、幾つか使用可能あるいは治験中のものがあり

ますが、根本的治療法としてのワクチンが使用可能になるまでは、人と人との接触を少なくとも80%削減するために、私たち一人一人が努力するしかありません。それを可能にするために政府や自治体は思い切った財政的サポートを行い、医療崩壊の防止とともに、個人や中小企業倒産やコロナウイルス関連死などを防止していただきたいと思えます。

100年前世界で大流行したスペイン風邪は後にH1N1型コロナウイルスによるものと判明しましたが、日本では当時の内地の総人口5600万人のうち45万人の命が奪われ、火葬場が満杯となり、集落は全滅という、まさに地獄絵を呈したそうです。当時の政府は国民に「人ごみを避けよ」と呼びかけながら、一方で「満員電車はOK」というダブルスタンダードの対策をとったとされています。いまこそ、国民が一丸となってこの時の教訓を生かし、徹底した接触削減を遂行することにより感染を早期に終息させようではありませんか。(豊田)



慢性腎不全について

腎臓には体の水分を調節したり、老廃物を尿として排泄する機能があります。腎不全とは、腎炎などの病気により血液を濾過するなどの腎臓の機能が低下し、老廃物を十分に排泄できなくなる状態のことを言います。腎不全が慢性化すると腎機能は回復不可能となり、体内の正常な環境を維持出来なくなつて、多彩な症状を呈するようになつた状態のことを慢性腎不全といえます。さらに腎機能が低下して末期腎不全となると、生命に危険を来すため透析や腎移植などの治療が必要となります。末期腎不全は現在日本では約32万人いるとされています。

症状

尿量の低下が起ると体内に余剰な水分が残るため、顔や手足のむくみ、体重増加、動悸、息切れなどが起ります。肺に水がたまると呼吸困難となる場合もあります。腎臓は血液を造るのに必要なホルモンを産生するため、それが産生出来なくなると貧血が出現します。その他の症状としては、老廃物の蓄積による食欲不振や吐き気、不整脈による動悸などがあります。

治療

末期腎不全まで進行すると、腎代換療法として透析療法(血液透析、腹膜透析)が腎移植が必要となります。腎移植は透析と比較するとより健康に近い生活が可能ですが、腎臓の提供者が必要です。末期腎不全になる前に腎臓の機能低下を早く発見し、その原因となる疾患の治療をしっかり行うことで、末期腎不全になることの予防となつたり

原因
慢性腎不全の原因は、多い順に糖尿病性腎症(約43%)次に慢性糸球体腎炎(約18%)3番目は高血圧などによる腎硬化症(約13%)となっています。特に糖尿病性腎症と腎硬化症は毎年増え続け、この二つで年間約2万人の患者さんが透析治療導入となっています。

進行を遅らせることができます。特に塩分の過剰摂取は高血圧を来た



しやすく、高血圧は腎機能障害を助長するため、慢性腎不全においては塩分制限は基本となります。特に浮腫や高血圧を伴う場合は、塩分摂取量は1日6g未満を目標とします。

慢性腎不全の原因として最も多いのは糖尿病性腎症であり、高血糖状態が長く続くと腎臓の糸球体が障害されて腎機能障害を発症するとされています。糖尿病を発症しないようにするのは当然ですが、糖尿病と診断された場合は専門医の指導の下、血糖コントロールをしっかり行う事が慢性腎不全の予防となります。(白橋 顕彦)

がん患者さんやそのご家族、介護援助者の方々の交流会です。
一般の方もご自由にご参加ください。

リレー・フォー・ライフ大分サロンのご案内

毎月第2日曜日 午前10:00~12:00

主催 リレー・フォー・ライフ・ジャパン大分

当院の1階多目的ホールで開催しています。
会費は不要です。

大分記念病院 1月定例研修会

医療現場のハラスメント

弁護士 鈴木 宗巖 先生

1月16日(木)の定例研修会は、弁護士の鈴木宗巖先生による「医療現場のハラスメント」と題した講演でした。以下は鈴木先生執筆の抄録です。

1 ハラスメントとなるか否かは受け手が嫌な思いをしたか否かで判断されます。

患者の圧倒的多数は医療についての知識がなく、自らの健康や命に不安を抱いて医療機関に身を委ねます。専門的知識がなく不安な状態で、自分や自分の家族が同じことをされたらどのように受け止めるかを意識すべきです。大和田敢太著「職場のハラスメント」中公新書(2018年2月25日発行)では「医師からのハラスメントの事例」として、看護師を見下す。看護師の報告を無視したり、罵倒したりするのに、異常があると看護師の観察ミスだと責めるといった看護師のアンケート内容を紹介しており、そのような医療現場では看護師が患者に同様の態度をとってしまうことが懸念されます。

2 患者やその家族は、処置中の医療機関関係者の笑い声や世間話、急な死亡退院なのに時間の猶予ももらえず、葬儀社の到着時間がわかれば早く知らせてほしいと言われたり、故人を霊安室に安置しておくのが迷惑であるかのように、深夜でも何時でも葬儀社は来てくれるのですぐ連絡して自宅に運んだらどうかと言われたりしたことに深く傷つき、不満を抱きます。

3 病気を治すという共通の目標をもっていたのに、期待した結果ではなかった事態が生じてしまうと、医療機関側が、苦情を訴える患者側を敵(クレーマー)ととらえ、医事紛争を勝ち負けの問題として捉えるといった対応をとることは慎むべきです。



4 患者と現場スタッフをハラスメントから守るために重要なポイントは以下のとおりです。

① 患者・家族がペイハラ化しそれが増幅される要因の一つに、当該医療機関の医師・看護師等の患者・家族への対応の拙さ(ぞんざいな言葉遣い、不親切な態度・説明など)があるが、その原因が劣悪な就労環境にあることも考えられることから、医療機関の管理者等幹部は、当該医師・看護師等スタッフ職員の就労環境についても目を配ること。

② 問題が発生した場合、できる限り早い段階で「正当な主張・請求・要求」といえるのではないかと法的責任を負う余地はないかを医療機関内で検討のうえ結論を出し、法的責任を負うべきとの結論となった場合は謝罪のうえ医事賠償保険を通じた弁護士案件とすることによって、それ以降の現場関係者の対応の負担を回避する。

③ 法的責任がないとの結論に至った場合は、その根拠をガイドライン等の資料に基づいて説明・回答するとともに、不合理あるいは脅迫的な要求に対しては、病棟看護師、苦情担当者、医療安全担当者等の関係部署が必要に応じて警察と連携し、総力をあげて対応し、一人で対応させるべきではなく、担当部署に任せっきりにしない。

④ 「公的機関に訴える」「報道機関に訴える」「弁護士に相談して裁判を起こす」という言葉に対しては「そのようにしていただいて結構です」と答え、真摯かつ冷静沈着な対応に終始する。



はやの里便り

安心して生活を続けていただくために ～新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策～



「はやの里」の取り組み



常にアルコール消毒剤を携帯して手指消毒を徹底しています。



来所される外部業者の方にも検温し、その日の体調を確認しています。



常にマスクを着用して業務に従事しています。

はやの里では大分記念病院における新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策に準じ、感染経路の遮断という観点から原則としてご家族を含め面会は禁止となっております。また、ケアマネジャーによるモニタリングやサービス担当者会議も極力ご遠慮いただいております。職員としましては出勤前の検温と出勤後の体調確認を徹底し、介護士や看護師など直接、入居者に触れる職員は手指消毒剤を常備し、これまで以上に感染予防に努めております。

そのような状況のため、ご家族やケアマネジャーの方からは「体調は変わりませんか?」「デイサービスにはちゃんと行けていますか?」等ご心配の声も寄せられています。最近のご様子やご様態など、些細なことでも構いません、お気軽に何度でもお電話にてお問い合わせいただければと思いますし、はやの里からもご連絡させていただきます。

はやの里ではこれまでと変わらず入居者の皆様が安心して生活を送れるよう職員一同、入居者おひとりおひとりに心を配り、ご家族にも寄り添ってまいります。

今年度は例年春に行っていた南大分スポーツパークでのお花見や大分いちごども園の園児との交流は残念ながら行えませんでした。新型コロナウイルスが終息したら楽しんで参加できる行事を今のうちに入居者の皆様と一緒に考えていきたいと思っております。そして今の生活をより生き生きと過ごしていただけるよう取り組んでいきたいと考えております。皆様の新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策に対するご理解とご協力感谢您いたします。

今後の「はやの里便り」では、はやの里内にある各サービス提供事業所(訪問介護ステーション、訪問看護ステーション、デイサービス森のコーラス)がリレー方式で執筆させていただきます。次号は訪問介護ステーションですのでご期待ください。

有料老人ホーム はやの里 生活相談員 尾辻健太



当面の間、ご家族も含め面会を禁止させていただきます。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



お問い合わせは TEL 097-543-6400

講演会報告

COPD(慢性閉塞性肺疾患)に関する講演会／羽屋公民館にて

2月14日(金)に大分市の羽屋公民館で豊府校区社会福祉協議会の研修会が開催されました。当院呼吸器内科の向井豊医師が講師となり、近隣地区の方々約60名の参加者を前に「多いけれども有名ではない喫煙と関係した病気～COPDの話を中心に～」と題し、COPD(慢性閉塞性肺疾患)についての講演を行いました。

COPD(慢性閉塞性肺疾患)とは主に長期間にわたる喫煙が原因で炎症が起こり、息が吐きづらくなる病気のことです。自分がCOPDかもと思ったら、先ず医療機関を受診すること。病院では問診、肺機能検査、画像検査などで病気を特定していきます。治療法としては、何よりも先に禁煙すること。そして薬物治療、運動療法、栄養療法などもあります。できるだけ早く病気を見つけて治療を続けられれば、症状を和らげたり、病気の進みを抑えることができますとスライドを使って説明しました。

講演終了後、当院臨床検査技師の河野が、希望される方に肺機能の検査を行いました。時間の都合で全員の検査をすることはできませんでしたが(希望者が多く抽選となりました)抽選に当たった方々は肺機能の検査を受け、ご自身の肺年齢を確認することができました。

また、配布したアンケートに「タバコをやめようと思う」「主人がタバコを吸うので心配です」「タバコの怖さを息子に伝えます」などの感想が多々あり、参加者の心に喫煙による害の怖さがストレートに伝わったのではないかと思います。

最後に事前の告知、また会場のセッティングやアンケートの配布と回収などで豊府社協や民生委員、羽屋地区の方々にも多大なるご尽力をいただきました。心から感謝いたします。本当にありがとうございました。

今後も地域の方々と当院との交流が深まる今回のようなイベントを開催していきたいと思っております。(広報 河野 貴子)

COPD早期発見のためのチェック表

以下の簡単な質問に答えて、COPDの可能性があるかどうか調べられます。各設問に対し、最も当てはまる回答の点数を書き込んでください。合計が4点以上であればCOPDの可能性が考えられますので、医療機関へ。

COPD集団スクリーニング質問表(COPD-PS)	
1. 過去4週間にどれくらい頻繁に息切れを感じましたか? ・全く感じなかった(0点) ・数回感じた(0点) ・時々感じた(1点) ・ほとんどいつも感じた(2点) ・ずっと感じた(2点)	点数
2. 咳をしたとき、粘膜や痰などが出てことがこれまでにありますか? ・一度もない(0点) ・たまにかぜや肺の感染症にかかった時(0点) ・一月のうち数日(0点) ・一週間のうちほとんど(1点) ・毎日(2点)	
3. 過去1年のご自身に最も当てはまる回答を選んでください 呼吸に問題があるため、以前に比べて活動しなくなった。 ・全くそう思わない(0点) ・そう思わない(0点) ・何とも言えない(0点) ・そう思う(1点) ・とてもそう思う(2点)	
4. これまでに人生で、タバコを少なくとも100本は吸いましたか? ・いいえ(0点) ・はい(2点) ・わからない(0点)	
5. 年齢はおいくつですか? ・35～49歳(0点) ・50～59歳(1点) ・60～69歳(2点) ・70歳以上(2点)	



向井 豊 医師

スライドで正常な肺とCOPDの肺を見比べています



みなさん熱心に話を聞いています

※「肺機能検査とは」

肺にどれだけの量の空気を吸い込めるか、どのくらい勢いよく息が吐きだせるかをスパイロメーターという機械を使って調べます。勢いよく息が吐けるかどうかをみる1秒率という数字が重要になりますが、この1秒率の数字が70%を切るようであれば、息を吐く力が低下しているということになり、息が吐きだせなくなる病気であるCOPDの診断につながっていきます。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、現在当院では当面の間、肺機能検査を中止しています。患者さんにはご迷惑をおかけしますが何卒ご了承ください。



大きく息を吸って

検査結果について説明しています



新入職員紹介

1月から4月に入社した新入職員23名をご紹介します。どうぞよろしくお願い致します。



佐藤 実桜
みお
(看護部)

患者さんの想いを尊重した看護の提供に努め、看護師としての基礎を1から学んでいきたいと思ひます。



島崎 真菜巳
まなみ
(看護部)

患者さんや家族に寄り添い、患者さんにとって安心・安全・安楽に過ごせるよう学びを深めていきたいです。病棟の看護職の1人として一生懸命努力します。



大久保 かすみ
(看護部)

1日でも早く仕事や患者さんに慣れて、皆様に信頼されるように精一杯努力して参ります。よろしくお願い致します。



武津 美月
(看護部)

より良い看護ができるように1つ1つ思いやりを持って患者さんに関わっていききたいです。



渡抜 莉沙
わたぬき
りさ
(看護部)

1日でも早く大分記念病院の一員として貢献できるよう、学習を積み重ねて患者さんに寄り添った看護が行えるよう頑張ります。



土谷 加奈
(看護部)

早く業務を覚え、知識を深めていけるよう頑張りたいです。



川野 千愛椿
ちあき
(看護部)

皆様のお役に立てるよう頑張ります。



小原 早紀
(看護部)

知識や技術をしっかり身に付け、常に笑顔で患者さんに寄り添った看護が出来るよう頑張りたいと思ひます。



後藤 翔子
(看護部)

患者さんや仲間を大事にできる看護師でありたいです。



島崎 亜紗美
(看護部)

早く業務を覚えられるよう努力し、いつも笑顔で信頼される看護を行いたいです。一生懸命頑張ります。



御手洗 春香
(看護部)

患者さんのお名前と顔を早く覚え、患者さんに寄り添えるナースになりたいです。



中川 玲奈
れいな
(看護部)

患者さんの支えになれるように笑顔で頑張っていきたいと思ひます。



久保 拓未
(臨床検査科)

初めての病院勤務ですので患者さんのことを考えながら検査を行い、信頼される臨床検査技師を目指します。



敦賀谷 亮汰
つるがや
り
(リハビリテーション科)

信頼される理学療法士を目指して、日々貪欲に仕事に向き合っていきます。



松田 美咲
(リハビリテーション科)

早く仕事を覚え、患者さんに寄り添った作業療法を提供できるよう頑張ります。



池田 真希
まさき
(リハビリテーション科)

職場の発展に貢献できるように頑張りたいと思ひます。




田邊 真理
(医療事務課)

経験のない業務のため覚えることが多くメモが欠かせない毎日です。皆様にはご迷惑をお掛けすることが多々あると思いますが早く慣れる様頑張りたいと思いますのでご指導よろしく願いいたします。



後藤 杏介
(医療事務課)

親のすねを骨が見えるまでかじったので、しっかり働いて両親に美味しいご飯をごちそうしたいと思います。



平松 裕也
(医療福祉地域連携部)

職場の環境に慣れ、業務をしっかり理解し、患者さんの気持ちに寄り添えるMSWになりたいです。



小田 憲一
(送迎支援室)

ホスピタリティマインドを高めて透析患者さんの送迎の仕事を極めたいと思います。



渡辺 キミ子
(通所介護事業所 森のこまろ)

利用者さんが健やかで楽しい日々が過ごせる様サポートしたいと思います。



眞田 千恵子
(はやの里 訪問看護ステーション)

患者さんが安心して看護が受けられるよう、早く環境や仕事に慣れるように頑張ります。



大垣 敏宏
(はやの里 訪問看護ステーション)

体調管理に気をつけて自分の出来る事をしっかりとやっていきたいと思っています。



入社式および新入職員オリエンテーション

4月1日(水)に2020年度の入社式と新入職員オリエンテーションを実施しました。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、出席者は全員、検温、マスク着用、手指消毒などを徹底し、例年よりもお互いの席を離して座るなどの対策をしっかりと講じたうえでの実施となりました。

例年、本来であればこのあと数日間、オリエンテーションを実施するのですが、今年は新型コロナウイルスのため、翌2日(木)までの実施となり、よりタイトなスケジュールになりましたが、当院の未来を担う新人さんたちの今後の活躍に乞うご期待です。

新任医師紹介

4月1日より松島 文子 先生が当院に着任されました。今後、幅広い分野で活躍されることを期待しています。



松島 文子 先生 にインタビュー

■ 自己PRをお願いします。

絶対音感で耳コピーでだいたい何でも弾けます。

急性期から生活期まで目配りできる医療者でいたいと思います。

皆さまと楽しく仕事ができるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

■ 今後の抱負をお聞かせください。

患者さんとともに歩み、地域医療に貢献していけるよう頑張りたいと思います。

作りま専科

グリーン
アスパラガスの白和え

<材料> 2人分

グリーンアスパラガス ……3本
塩 ……少々(茹でる用と下味用)

和え衣 { 木綿豆腐 ……100g(1/4丁)
砂糖 ……大さじ1/2
薄口醤油 ……大さじ1/2
練りごま(白) ……大さじ1/2

木の芽 お好みで
黒こしょう お好みで

作り方

- ① 木綿豆腐はペーパータオルで包んで、皿などのおもしをのせて約半日ほど置く。ここでしっかりと水気を切る。
- ② グリーンアスパラガスは根元の硬い部分の皮をむき、塩少々を入れた熱湯で1~2分茹でる。ざるに上げて水気を切り、塩少々をふって下味をつける。4~5cmの長さに斜め切りする。
- ③ フードプロセッサーに①の豆腐を手で粗くくずして入れ、和え衣の残りの材料を加えてなめらかになるまで攪拌する。途中でへらなどで混ぜて様子を見る。
- ④ ボウルに②を入れ、③を少しずつ入れながら和える。器に盛り、お好みで黒こしょうを適量ふり、木の芽をのせる。

編集後記

新型コロナウイルス感染症の勢いが止まりません。猛威を奮って私たち人類を脅かし続けています。現在、感染されて病気と闘っている方々の1日でも早いご回復を心からお祈りするとともに、亡くなられた方々のご冥福を心からお祈り申し上げます。

今回の「記念樹」はやはり、新型コロナウイルスの話題は避けて通れませんでした。巻頭言では「新型コロナウイルスパンデミック」と題し、緊迫する状況を国家存亡の危機であると論じ、また「はやの里便り」でも、感染拡大予防対策としての施設内での取り組みを写真とともに紹介しています。

日々変わり続ける状況のなかで、当院でも病院感染対策委員会を中心にその都度緊急の会議を開き、病院としてとるべき体制を速やかに実行しています。職員の出勤前の検温、体調確認の義務、マスク着用、手洗い、手指消毒の徹底は当然のことながら、絶対にウイルスが院内に侵入しないよう、来院者全員の検温、外来受付カウンターにビニールシートカバーの取り付け、職員が使う休憩所や食堂などの換気、1時間毎に館内BGMを鳴らして、ドアノブやエレベーターのボタン、職員使用のパソコンなどをアルコールで清拭するクリンタイムを設けるなど、職員全員が一丸となって感染拡大防止に取り組んでいます。

今は少しでも早くこの異常な事態を切り抜けるために自分を思いやり、相手を思いやり、皆が思いやりの心を連環させて協力し合うしかないと思います。じっと耐えるしかないです。かつての穏やかな日常が再び戻ってくるその時に思いを寄せながら。

(図書室 河野)



受付カウンターの様子

心癒されるアトスポットできました

増築棟リハビリ室連絡通路の壁面に当院看護部の時松礼子さんが描いたボタニカルアートを展示しています。

優しいタッチの作品に心癒されますよ。

新型コロナウイルスが収束して、また面会や来院が可能になった際は

ぜひご覧ください。



医療法人 大分記念病院

基本理念

1. 私達は法人各施設・各部門が協力して、患者中心のチーム医療と利用者中心のチームケアを実践することにより患者及び利用者の満足度と幸福に貢献します。
2. 私達は常に診療レベルの向上を図ると共に地域住民の皆様様に安全で良質な医療とケアを提供します。
3. 私達は地域の医療、福祉機関との緊密な連携を保ちながら一般急性期医療および地域包括ケアを実践します。

基本方針

1. 専門的医療レベルと医のアートを兼ね備えた全職員による全人的医療を患者の皆様様に提供します。
2. 患者及び利用者の皆様様の立場に立って、信頼と安全の確保に全力を尽くします。
3. 患者及び利用者の皆様様の満足度を高めるべく、心のこもった医療と介護サービスに努めます。

当院のホームページがスマホから見やすくなりました!!

大分記念病院のホームページがスマートフォンやタブレットからもご覧いただきやすくなりました。ぜひご利用ください。



大分記念病院ホームページはこちらから

大分記念病院

検索

